

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議 第1回臨時会議会議録
開催日時	平成25年2月8日（金曜日）午後2時00分から4時00分まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：須永議長、齋藤副議長、内田委員、川崎委員、倉島委員、操野委員、濱崎委員、原委員、矢野委員、山田委員 （欠席）稲葉委員、白木委員、本領委員 事務局：磯崎社会教育課長、神田主査
議題	(1) 社会教育施策の今後のあり方について (2) 研修会について (3) 報告 その他 1 平成25年度都市社連協役員会等事業日程について
会議資料の名称	資料1 社会教育施策の今後のあり方について（案）未定稿 資料2 社会教育施策の今後のあり方について（骨子案）未定稿 資料3 平成25年度都市社連協役員会等事業日程表 図書館だより 第48号
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
平成25年1月定例会議の会議録1ヶ所訂正後、承認する。	
<p>(1) 社会教育施策の今後のあり方について</p> <p>○議長：</p> <p>正副議長と事務局で1月30日（水曜日）と2月5日（火曜日）に打合せを行い、提言のたたき台と骨子案とをそれぞれ、配布資料1「社会教育施策の今後のあり方について（案）未定稿」、配布資料2「社会教育施策の今後のあり方について（骨子案）未定稿」のとおりまとめた。</p> <p>○事務局：</p> <p>提言のたたき台については、これまで出された意見を出来るだけ入れ込む形で柱立てをしたが、議論の深まっていないところや、不足している部分も多くあり、項目の表現や文章については、今後提言完成に向けた検討の中で再度修正加筆をする必要がある。また、細かな施策のアイディアは、例示という形で載せることにしたい。骨子案については、今後どういった事項について提言されるのかを示す形でまとめてある。案文等の形式がこれでよいか確認していただきたい。</p> <p>（配布資料1「社会教育施策の今後のあり方について（案）未定稿」について）</p> <p>○委員：</p> <p>「はじめに」で市の財政状況をベースにして検討していく事を確認し、「当面の課</p>	

題」としては、公民館と図書館が市民の活動センターとして大切であり、組織と機能がつながりを持つ必要性が示されている。また、地域生涯学習事業の見直しについても触れられており、その結果として、社会教育課の組織と機能と人員体制をどうしていくかにつながっている。概ねこれまでの議論が網羅されており提言の骨子はこれで良いと思う。あとは内容をどうしていくのかを議論していけばいいのではないだろうか。

○委員：

「はじめに」の最終段落の社会教育と生涯学習の関係については、社会教育に絞って教育委員会の範囲の内容について検討したいという趣旨だろうが、わかりづらい気がする。また、「当面の課題」の文章内容も矛盾している箇所があるように思う。

○事務局：

文章内容や表現については、まだ、十分精査されていないので、取り上げる項目や内容が確認できれば、再度調整し、推敲していきたい。

(提言1) について

○委員：

「はじめに」で確認された「効率的なサービス提供の仕組みづくり」と施策内容についての連動がわかりづらい。「提言1」のところで、民間活力の導入について触れても良いのではないか。

(提言2) 地域生涯学習事業の充実について

○事務局：

施策1の文中の「地域生涯学習」は、「地域生涯学習事業」のことで、記述間違いである。

○委員：

地域生涯学習事業は、地域で子どもを育てるということで子どもと地域を結びつけ、高齢者にも子どもとかかわることで生きがいを与える事業というイメージがある。事業も、子供対象や親子対象が多い気がする。

○委員：

地域生涯学習事業は、子どもと地域のつながりだけではなく、地域住民の学習活動の場として、地域と大人を結びつける取り組みだと思っている。

○委員：

実施している事業は、結果として、子ども対象 親子対象が多くなっている状況があるが、地域の大人対象の事業も実施している。

○委員：

地域生涯学習事業と学校施設開放事業は学校施設開放運営協議会に委託されているが、それぞれ別の事業である。地域生涯学習事業は学校施設開放事業の延長ではないだろう。

○事務局：

地域生涯学習事業は、西東京市の独自事業としてスタートした。その後放課後子ども教室事業の取り組みが国から示され、西東京市でも今年度から学校施設開放事業の自由遊びの部分を放課後子供教室事業として実施している。地域生涯学習事業は、身近な場所での地域住民への学習機会の提供、事業を通じた人材活用、地域住民の学校への協力促進、地域の子どもへの関心喚起など、いろいろな効果が期待できる事業である。また、放課後子供教室事業の目指す安全安心な居場所づくりの要素もあり、地域生涯学習事業はいろいろな要素を含んでいる。今後は、地域生涯学習事業の目的を明確にしながら、事業の方向性や他事業との連携について検討していく必要があると思う。

○委員：

地域生涯学習事業は奥が深い。今後のあり方としては、地域生涯学習事業スタート時の考え方で進めていくのか、新たな考え方として、公民館を地域の学習支援センターと考え、公民館も巻き込んで充実させていくかなど、方法はいろいろ考えられる。

○委員：

各校で実施するのではなく、地域をブロックに分けて実施するのも一つの方法だろう。

○委員：

大人向けの事業は公民館が担当するとなれば、地域生涯学習事業は子供対象の事業だけにすることも考えられるのではないか。

○委員：

公民館が大人向けの事業に取り組むとしたら、地域生涯学習事業の大人対象事業は公民館が学校への出前講座のような形で取り組むことも考えられる。地域生涯学習事業を子供対象事業に絞ると、放課後子供教室での学習体験事業に重なる部分も出てくるだろう。そうすると地域生涯学習事業の位置づけもあいまいになる。地域生涯学習事業のあり方についてきちんと論議すべきだろう。

○委員：

地域生涯学習事業は、地域の人たちが身近な小学校で学べるという良い事業だと思うので、充実させたいと思う。しかし、学校施設開放運営協議会だけでは、地域の人たちへの周知方法も限界があり、事業のPRをして参加してもらうことは難しい。そのため、市民が地域生涯学習事業の存在を知ることなかなか出来ない。事業終了後には、参加者によるサークル化をめざしたいと思うが、講師依頼や会場確保などを自分たちでやっていくとなるとなかなかサークル化しようという動きも出てこない。公民館は事業企画の専門的職員のいる機関だと思うので、サポートして欲しい。公民館6館が軸になって、地域でやっている人たちを束ねて、学校施設を活用してこういう事業をやってみようかと巻き込むことが出来ればよいと思う。今後継続させ拡充していくためにも、見直しが必要だろう。

○委員：

地域生涯学習事業については、いろいろな可能性がある。今の形を変えていくことも含めて発展的に考え、きちんと見直しをしていく必要があるだろう。

(提言2) ボランティアの育成と活用について

○委員：

NPOが企画する講座の講師探しも、人的ネットワークが大切で、その人を見て講師を頼むということがあるようだ。行政で人材情報の整備や活用が進まないなら、NPOなどを活用してやっていくのも良いのではないかと思う。

○委員：

地域の人たちが知り合う機会を持ちたいと考えて、主体的に地域で何かをやろうとしても、地域にある施設や団体、人材情報などなかなか得られず、どうしていいかわからない人がたくさんいると思う。講座の情報や人材情報を得ても、リストだけだと内容がわからず情報を選びきれない。地域の情報を把握し、その情報を活用してコーディネートしてくれる人が必要だろう。

○委員：

地域にはいろいろな活動や事業がある。そういった地域の情報を束ねて、市民に提供できたら良いと思う。同じような分野の動きをコース別にまとめて、市民大学講座のようにして示せば、同じような活動に関心のある市民が交流することができ、地域で何かをやりたい人を支援できるだろう。そういった全体像を示すのが行政であり、それをコーディネートしていくのが社会教育課ではないかと思う。

○委員：

東京都の生涯学習情報をまとめた「東京都生涯学習情報サイト」がある。そのサイトを見ると、都内で開催される講座などがわかる。西東京市でも、市内の情報を集めてこういった情報が見られる西東京市版のサイトが出来ればよいと思う。

(配布資料2「社会教育施策の今後のあり方について(骨子案)未定稿」について)

○事務局：

配布資料1「社会教育施策の今後のあり方について(案)」の「社会教育がめざすものは何か」の部分は、これまで出された意見の中から目指すものに関連すると思われる内容を書き出してみた。骨子案の「1今後の社会教育施策のめざすもの」の部分にどういった内容を入れたら良いか検討していただきたい。

委員：

目指すものだけでなく、それを目指すために、どういう観点から提言をしたのかという内容が盛り込めたら良い。骨子案の「1」と「2」をつなぐ部分として配布資料1「社会教育施策の今後のあり方について(案)」の「はじめに」に書かれている内容を入れたらどうだろうか。

○委員：

今までの社会教育施策は、市民が自発的に学習しようとするれば、ある程度環境整備はされていると思う。今後は、市民に個人の学習の充実からもう一步踏み込んで 社会に起きている事象を考えて、課題解決に寄与してもらいたいという想いがある。社会教育施策の全体像として、そういったことを意識して、市民に対して働きかけていけるのかを考えてみたい。

○委員：

目指すものは抽象化しないで、具体的に書いていく事が必要だろう。

○委員：

行政改革が求められているが、社会教育で何ができるのかといった応援メッセージになる提言にしたい。

○議長：

今日の意見を基に、提言骨子案について正副議長で再度調整し、次回会議に提案したい。提言骨子については、こういう内容で提言をまとめる予定であるというものなので、今後の検討の中で項目等の変更もあると考えている。提言作成についての進捗状況報告ということで、3月上旬には提言骨子を提出したいと考えている。

※今後の予定

2月定例会 2月15日（金曜日）午後4時から（研修会終了後）

（必要なら2月定例会で臨時会開催について検討する。）

（2）研修会について

○議長：

2月15日（金曜日）の研修会は、司会進行を齋藤副議長、講師対応を内田委員にお願いし、委員の方は、当日1時15分に会場に集合して頂きたい。

○事務局：

講師には、これまでの会議での議論の経過や疑問点などをお伝えしてあるので、今後の提言作成の参考にしていただける内容になると思う。

○全委員：

了解した。

（3）その他

1 平成25年度社連協事業日程について

○事務局：

平成25年度の社連協事業が配布資料3「平成25年度都市社連協役員会等事業日程表」のとおり予定されている。本日出席者委員の4月20日の総会の参加について確認したい。

※総会参加予定：須永委員、齋藤委員、内田委員、川崎委員、操野委員、濱崎委員、原委員、矢野委員

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議第1回臨時会は終了する。

※次回会議 平成25年2月15日（金曜日）午後4時から（研修会終了後）